

Bio-Summit

地球環境を改善するアグリバイオ！！

現在世界的な大きな課題は、「地球温暖化」と「食糧とエネルギーの供給確保」である。アグリバイオがこれらの課題解決に大きな貢献が期待されているところは広く認められているところである。地球温暖化を減速させるには植物によって固定される循環可能な炭素を利用するエネルギーの獲得である。これは、間違いなく地球環境に良い効果をもたらすものである。これらは、2008年7月7日から9日まで開催される世界のリーダーの集まりである北海道洞爺湖サミットの主要課題である。

このG8サミットの開催に呼応して、NPO 北海道バイオ産業振興協会（HOBIA）と日本バイオテック情報普及協会（CBIJ）は、多くの関連学協会とともに、これらの緊急且つ重要課題について考えてきております。今回は、我々が取りうる今後の方策をバイオ燃料、食糧供給、炭素排出削減などについて考えるために、札幌と東京でシンポジウムを開催する。

札幌会場

場所：カデル 27、札幌市中央区北 2 条西 7 丁目

日時：2008 年 6 月 30 日（月） 12：00-17：00

講演者と演題（仮題）

Dr. Aldemita (フィリピン): フィリピンにおけるゴールデンライスの開発とその人類への福祉及び環境への貢献 D

Dr. Spangenberg (オーストラリア): 環境を考えた農業バイオテック (Agricultural biotechnology for environmental outcomes)

Dr. Zakri (国連大学): 組換え作物の地球規模での貢献

Dr. Yutaka Sato (北海道農業研究センター): ストレス耐性組換え作物の研究開発とその農業への貢献.

Dr. Suguru Sato (米国農務省、米国大使館): Biotechnology and US agriculture バイオテクノロジーと米国農業

講演の終了後講演者によるパネル討論を行ないます。

逐次日本語通訳あり

東京会場

場所：東京大学農学部 化学第 1 教室

日時：2008 年 7 月 1 日（火） 12：30-17：00

講演者と演題（仮題）

Dr. Aldemita (フィリピン): フィリピンにおけるゴールデンライスの開発とその人類への福祉及び環境への貢献 D

Dr. Spangenberg (オーストラリア): 環境を考えた農業バイオテク (Agricultural biotechnology for environmental outcomes) .

Dr. T. Yamakawa (東京大学大学院農学生命科学研究科): 日本における組換え作物の研究開発の現状: その賛否の状況について

Dr. Suguru Sato (米国農務省、米国大使館): Biotechnology and US agriculture バイオテクノロジーと米国農業

講演の終了後講演者によるパネル討論を行ないます

参加費: 無料

主催: NPO 北海道バイオ産業振興協会 (HOBIA)、日本バイオテク情報普及協会 (CBIJ)

共催: 日本育種学会、日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学会、日本生物工学会、日本食品科学工学会、くらしとバイオプラザ21、バイオインダストリー協会 (JBA)、バイオ作物懇話会、NPO グリーンテクノバンク、近畿バイオ産業インダストリー振興会議

後援: 日本植物学会、日本環境バイオテクノロジー学会、日本分子生物学会

問い合わせ先及び申し込み先: NPO 北海道バイオ産業振興協会 (HOBIA) TEL/FAX 011-706-1331 担当: 西原由佳、富田房男 email:mail@hobia.jp